慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 高山鉄男教授略年譜・業績 |
| Sub Title | Biography and publications of Tetsuo Takayama |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学藝文学会 |
| Publication year | 1999 |
| Jtitle | 藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.77, (1999. 12) ,p.474(11)- 484(1) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 井口樹生, 高山鉄男両教授退任記念論文集 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00770001-0484 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 高山鉄男教授　略年譜・業績

# 略　年　譜

昭和10年（1935年）　1月18日，東京市四ツ谷区坂町に生まれる。父俊男，母ツルの長男。

昭和16年（1941年）　杉並区桃井第一小学校入学。

昭和19年（1944年）　神奈川県秦野市の母の生家に疎開。翌20年，終戦とともに，東京に帰る。

昭和22年（1947年）　3月，杉並区若杉小学校卒業。4月，慶応義塾普通部入学。当時，普通部は，天現寺の幼稚舎の一部を間借りして校舎にしていた。文芸部に入り，国語担当の橋本迪夫先生の影響を受けた。

昭和25年（1950年）　普通部を卒業し，慶応義塾高等学校に入学。高校時代は，重量挙部，演劇研究会などに所属していた。かたわら慶応外語に通って，フランス語を学び，後藤末雄教授のクラスで，松原秀一さん（慶応大名誉教授）と知り合った。

昭和28年（1953年）　慶応義塾高等学校を卒業し，慶応義塾大学文学部に入学。

昭和29年（1954年）　フランス文学専攻に進学。後藤末雄先生，白井浩司先生，当時はまだ助手だった大浜甫先生などから教えを受けた。佐藤朔先生は，留学中で，学部時代は教えを受けられなかった。同人雑誌『作品・批評』に参加，同人には，安東伸介さん（慶応大名誉教授），川本邦衛さん（同大名誉教授）らがいた。

昭和32年（1957年）　慶応義塾大学文学部を卒業し，同大学大学院修士課程（仏文学専攻）に入学。翌33年，フランス政府の給費留学生試験に合格したが，修士の資格を得てから留学することを試験委員に勧められ，留学を1年

延期する。

昭和34年（1959年）　修士課程を修了，博士課程に進学するが，9月，同課程を退学してフランスに出発。M・M汽船の1万5千トンの船で横浜港を出たのが9月半ば，パリに着いたのが10月半ばであった。大学都市の日本館に入った。当時，パリで大学といえば現在のパリ第4大学，つまりソルボンヌしかなく，博士課程に登録して，カステックス教授の指導を受けた。

昭和37年（1962年）　6月，博士論文の公開審査あり，学位を取得。論文の題名は，「バルザック未完成作品の研究（1829-42）」。この年の末，往路と同じM・M汽船の船で帰国。

昭和38年（1963年）　4月，慶応義塾大学文学部（仏文学専攻）の助手に任用される。日本フランス語フランス文学会春季大会で，バルザック『絶対の探究』について研究発表。

昭和41年（1966年）この年刊行の *Les Œuvres romanesques avortées de Balzac*（*1829-1842*）により，慶応義塾賞受賞。

昭和42年（1967年）　文学部専任講師となる。この頃，大学紛争激しく，憂鬱なことの多い教員生活であった。日本フランス語フランス文学会辰野賞を受賞。

昭和44年（1969年）　4月，東京大学教養学部非常勤講師（仏語担当。翌45年3月まで）。

昭和47年（1972年）　慶応義塾大学文学部助教授となる。同学部学習指導副主任（翌48年3月まで）。北里大学医学部非常勤講師（仏語担当。翌48年3月まで）。ル・クレジオ『発熱』の翻訳により，クローデル賞受賞。

昭和48年（1973年）　特別研究期間の適用を受け，4月から翌49年3月まで，パリ近郊のクールブヴォワに滞在。

昭和54年（1979年）　文学部教授に任用される。

昭和55年（1980年）　大学院文学研究科学習指導委員（昭和57年３月まで）。

昭和57年（1982年）　大阪大学文学部非常勤講師（フランス文学担当。翌58年３月まで）。

昭和58年（1983年）　京都大学文学部非常勤講師（フランス文学担当。翌59年３月まで）。

昭和60年（1985年）　２月，学術審議会専門委員（昭和62年１月まで）。４月，三田文学会常任理事（現在に至る）。10月，国際モーリヤック協会主催のシンポジュウム（パリ）で，『テレーズ・デスケルー』が日本の作家に与えた影響について研究発表。

昭和61年（1986年）　６月，日本フランス語フランス文学会幹事長（翌62年６月まで）。

昭和62年（1987年）　大阪大学文学部非常勤講師（フランス文学担当。翌63年３月まで）。

昭和63年（1988年）　国際センター副所長（平成３年３月まで）。

平成３年（1991年）　特別研究期間の適用を受け，４月から翌平成４年３月まで，パリ第16区のパッシーに滞在。７月，ヨーロッパ協会主催の研究集会（ヴェルサイユ）で遠藤周作について講演。10月，国際モーリヤック協会主催のシンポジュウム（パリ）で，『テレーズ・デスケルー』の劇化の問題について研究発表。

平成６年（1994年）　４月，大学院文学研究科学習指導委員（平成７年９月まで）。

平成７年（1995年）　10月，国際モーリヤック協会主催シンポジュウム（パリ）で，情念の物語としての『テレーズー・デスケルー』について発表。

平成９年（1997年）　６月，慶応義塾大学芸文学会委員長（平成11年６月まで）。10月，国際モーリヤック協会主催シンポジュ

ウム（パリ）にて，「愛されぬ女テレーズ」の題で研究発表。

平成12年（2000年）　3月，慶応義塾を定年退職。

# 著作一覧

I　著書
II　訳書
III　雑誌等に発表した論文，評論，翻訳など
　A　邦語によるもの
　B　仏語によるもの
IV　書物の一部として発表された解説，評論，翻訳など
V　随筆その他

## I　著書

*Les Œuvres romanesques avortées de Balzac*（*1829-1842*）慶応義塾大学言語文化研究所　1966年

『対談　世界の文学』（上総英郎との共著）　朝日出版社　1972年

『バルザック—人と思想』　清水書院　1999年

## II　訳書

バルザック『谷間のゆり』世界文学全集第5巻　講談社　1967年

ル・クレジオ『発熱』新潮社　1970年

バルザック『金色の眼の娘』『捨てられた女』世界文学全集第42巻　河出書房新社　1970年

バルザック『ウージェニー・グランデ』世界文学全集第4巻　講談社　1975年

ル・クレジオ『悪魔祓い』新潮社　1975年

ボナ・ド・マンディアルグ『ラ・カファルド』コーベ・ブックス　1976年

ル・クレジオ『向こう側への旅』新潮社　1979年

バルザック『ふくろう党』世界文学全集第14巻　学習研究社　1979年

ドニュジエール『めいわく犬』（高山晶と共訳）講談社　1982年

モーリヤック『ありし日の一青年』モーリヤック著作集第6巻　春秋社

1983年

バルザック『ゴリオ爺さん』岩波文庫　1997年

## III　雑誌等に発表した論文，評論，翻訳など

### A　邦語によるもの

「バルザック『ルイ・ランベール』について」（『藝文研究』第８号）1958年

「コクトーの死をめぐって」（『無限』第16号）1964年

「バルザック『人間喜劇』の一面」（『本の手帖』第45号）1965年

レーモン・ルベーグ「バルザックの地方観」（翻訳）（『日仏文化』第20号）1966年

ル・クレジオ「ボーモンが苦痛と知り合った日」（翻訳）（『三田文学』第54巻第１号）1967年

「『プチ・ブルジョワ』主題考」（『藝文研究』第23号）1967年

「死・甘美なる母―三島由紀夫と日本の感性」（『季刊芸術』第６号）1968年

「バルザックの父性体験」（『ぱれるが』第188号）評論社

「ル・クレジオと物質への回帰」（『群像』第24巻第１号）1969年

「夢想の美学―谷崎潤一郎論」（『季刊芸術』第14号）1970年

「悲しみと日々―川端康成の作品における自我の構造」（『季刊芸術』第16号）1971年

「文芸批評のモチーフと位相」（『国文学　解釈と教材の研究』第16巻第１号）1971年

「安部公房における仮面の思想」（『国文学　解釈と教材の研究』第17巻第12号　1972年

「文芸季評」（『季刊芸術』第22号）1972年

「安部公房論」（『自由』第147号）1972年

「トーマス・マンと吉之淳之介」『国文学　解釈と教材の研究』第17巻第５号　1972年

「忘れられた思想家，ボナルド」（『三色旗』第317号）1974年

「哀しみの聖化—遠藤周作論」(『三田文学』第62巻第4号) 1975年
「文明からの逃亡—ル・クレジオ論」(『ユリイカ』第7巻第5号) 1975年
「文芸季評」(『季刊芸術』第35号) 1975年
「文学にとって言語とはなにか—ロラン・バルト覚え書き」(『季刊芸術』第43号) 1977年
「存在の風景—『向こう側への旅』」(『現代詩手帖』第20巻第6号) 1977年
「永遠に不在なるもの—『忘却の河』について」(『国文学　解釈と鑑賞』第42巻第9号) 1977年
「バルザック—体験と創造」1～3　(『季刊創造』第3号～第5号) 1977年
「私小説的自我の変貌—島尾敏雄論」(『作品』第1巻第2号) 1980年
「魂の死について—福永武彦論」(『早稲田文学』通巻第51号) 1980年
「バルザック『アルシの代議士』について」(『藝文研究』第44号) 1982年
「最晩年作『ありし日の一青年』について」(『春秋』第235号) 1982年
「私小説と日本人の『私』」(『三色旗』第431号) 1984年
「『テレーズ・デスケルー』と日本の作家たち」(『三田文学』第65巻第5号) 1986年
「『テレーズ・デスケルー』の成立に関する一考察」(慶応義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学　第4号　1987年
「『テレーズ・デスケルー』の草稿Iについて」(『藝文研究』第59号) 1991年
「*Mauriac : Conscience, instinct divin* について」(『藝文研究』第63号) 1993年
「『テレーズ・デスケルー』の謎」(『東京新聞』6月16日，17日) 1993年
「モーリヤックと遠藤周作」(『国文学　解釈と教材の研究』第38巻第10号) 1993年
「『テレーズ・デスケルー』とシャルトロン事件」(『藝文研究』第67号 1995年
ル・クレジオ「限られた知識」(翻訳) (『海燕』第14巻第16号) 1995年
「Thérèse 作品群について」(『藝文研究』第73号) 1997年
「遠藤周作『創作日記』について」(『三田文学』第63巻第10号) 1997年

ジュヌヴィエーヴ・パストル「妹フランソワーズと遠藤周作」(翻訳)(『三田文学』第78巻第59号) 1999年

B　仏語によるもの

*Réflexions sur* la Recherche de l'Absolu, *Etudes de Langue et Littérature françaises*, no. 4, 1964.

*Balzac au Japon, L'Année balzacienne 1966*, Garnier, 1966.

*Balzac au Japon, L'Année balzacienne 1968*, Garnier, 1968.

Thérèse Desqueyroux, *sources d'inspiration pour quelques romanciers japonais, Cahiers François Mauriac,* no. 13, Grasset, 1986.

Thérèse Desqueyroux, *du roman au théâtre*, in *Mauriac et le théâtre*, Actes du Colloque de la Sorbonne 1991, Klincksieck, 1993.

*Interférence des éléments narratifs dans la genèse du* Député d'Arcis, *Equinoxe*, no. 11, 1994.

Thérèse Desqueyroux, *roman de passion*, in *Mauriac et l'observation des passions*, Actes du Colloque de la Sorbonne 1995, 1996.

*Thérèse la mal-aimée dans le cycle de* Thérèse Desqueyroux, in *Les mal-aimés dans l'œuvre de Mauriac*, Actes du Colloque du Sénat et de la Sorbonne, octobre 1997, 1998.

IV　書物の一部として発表された解説、評論、翻訳など

アベ・プレヴォ『マノン・レスコー』(解説) 世界青春文学名作選　第9巻　学習研究社　1964年

ラディゲ『肉体の悪魔』(解説) 同上第10巻　1964年

モーパッサン『ピエールとジャン』(解説) 同上第11巻　1964年

ラディゲ『ドルジェル伯の舞踏会』(解説) 同上第12巻　1964年

ラマルティーヌ『若き日の夢』(解説) 同上第14巻　1964年

ドーデ『風車小屋だより』(解説) 同上第15巻　1964年

コンスタン『アドルフ』(解説) 同上第16巻　1964年

デュマ・フィス『椿姫』（解説）同上第17巻　1964年
スタンダール『カストロの尼』（解説）同上第20巻　1965年
モーパッサン『女の一生』（解説）同上第21巻　1965年
ラファイエット夫人『クレーヴの奥方』（解説）同上第25巻　1965年
ベディエ編『トリスタンとイズー』（解説）同上第26巻　1965年
メリメ『コロンバ』（解説）同上　第27巻　1965年
バルザック『知られざる傑作』（解説）同上第28巻　1966年
モーパッサン『ベラミ』（解説）世界文学全集第５巻　研秀出版　1970年
アルベール・ベガン「神話と幻想」（翻訳）世界文学大系　第28巻　筑摩書房　1972年所収
「帰国者の思想—永井荷風論」『留学の思想』　三修社　1972年所収
「文学の創造」「文芸批評」「イメージ・比喩・象徴」　慶応義塾大学通信教育教材『文学』慶応通信　1975年所収
「安部公房における空間」『小説の空間』　朝日出版社　1976年所収
遠藤周作『狐型狸型』（解説）角川文庫　1976年
遠藤周作『ただいま浪人』（解説）遠藤周作文庫　講談社　1976年
「「自己告白としての『ルイ・ランベール』」バルザック全集月報第25号　東京創元社　1976年
「同時代人の見たバルザック」バルザック全集月報第26号　東京創元社　1976年
遠藤周作『フランスの大学生』（解説）角川文庫　1977年
「社会の総合的壁画としての小説—バルザック」フランス文学講座第２巻　大修館書店1978年所収
バルザック『谷間の百合』（解説）世界の文学　第11巻　世界文化社　1979年
遠藤周作『作家の日記』（解説）作品社　1980年
「Ｊ・Ｍ・Ｇ・ル・クレジオ」『現代フランス文学作家作品事典』講談社　1981年所収
「批評」『20世紀のフランス文学』　通信教育教材　慶応通信　1983年所収

バルザック「不老長寿の霊薬」（翻訳）『フランス幻想小説傑作集』白水社 1985年所収

遠藤周作『哀歌』（解説）講談社文庫　1988年

青柳瑞穂『ささやかな日本発掘』（解説）講談社文庫　1990年

「江藤淳」『三田の文人』丸善　1990年所収

遠藤周作『恋することと愛すること』（解説）実業の日本社　1994年

「19世紀の歴史と社会（前半）」通信教育教材『19世紀のフランス文学Ⅰ』慶応義塾大学出版会　1996年所収

「歴史」「思想」通信教育教材『19世紀のフランス文学II』慶応義塾大学出版会1998年所収

## V　随筆その他

「ロヴァンジュール文庫のこと」世界文学大系　第68巻月報　筑摩書房 1963年

「バルザックの故郷を訪ねて」世界文学全集II―8　月報　河出書房新社 1963年

「密室の文学」（『新潮』第68巻第11号）1971年

「フランスの夏、日本の夏」（『慶応義塾大学報』8月号）1975年

「三田文学と私」（『三田文学』第63巻第10号）1976年

「ルソー偶感」（『総合教育技術』第33巻第9号）小学館　1978年

「パッシー便り　1」（『三田文学』第70巻第26号）1991年

「パッシー便り　2」（『三田文学』第70巻第27号）1991年

「パッシー便り　3」（『三田文学』第71巻第28号）1992年

「パッシー便り　4」（『三田文学』第71巻第29号）1992年

「追想片々」（『三田文学』第75巻第46号）1996年

「遠藤さんの思い出」（『三田文学』第76巻第48号）1997年

「死にかけた話」（『三田文学』第78巻第56号）1999年

「江藤さんの死」（『三田文学』第78巻第59号）1999年

「虚実」遠藤周作文学全集第7巻月報　新潮社　1999年